（十九日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　雜報欄行五十錢（場所指定三割增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話四五六四番

花嫁と教育の價値

ソホウ、インドウ

世は刻一刻地球の廻るが如く、或は水の流れるが如く絶えず變化し行くのである。今述べんとする結婚も其一つであらう。

抑も結婚は自分一身に於ける生涯迄關係する重大なる問題である事は、今更自分が事珍しげに述べる迄も無い事である。

自分は今女學校出の花嫁と、農家に於ける結婚に付いて唯感じたのみの事を述べて見よう。今や文明の世において結婚方法も種々異なるが、中にも神前に於けるなどは、最も進歩したる方法であらう。否、自由結婚、左樣であらうか。或は教會で披露の祝宴は料理屋でと云ふ風なれども、然し農家は其處迄進んでは居らぬ、否、本郡地方などは發達して居らぬ。有つても其れは或特種階級の間にのみ行はれてゐる、即ち少部分のみ。

然れども農家、教育は明治の御世より、此の方著しく進歩し嫁には必ず高女卒業をと迄進んで居る。具体的に云ひば女學校出の嫁は無ければ嫁にはいらぬと云ふ風なり。亦一方女學校卒業させねば、嫁の遣所が無い故娘は必ず女學校卒業させねばならぬ、と迄進んで來て居る。

所が女學校を卒業させれば、娘の心は如何に？八分迄百姓はいやちやわいなあーと來る。千代該で無い故そうは云ふまいが其の附近である。然しながら女學出の人はそう澤山なければ農家の多い土地では理想通りに參らぬものである。家庭の事情から推しても左樣である。即ち此處に於て結婚難と云ふものが生じて來る譯である。

女學校出の人の理想が高ければ高き程結婚難に陷るしむ譯である。故、結婚自分の志望とを連鎖して早くより考へて置かねばならぬものである。

其處で農家は如何にと云ふにまづ讀者も御存知の通り世の中には農家は勿論、町家も役人も、或は教師も無くては不可ぬのである。此の世に農家がなくても良きや不可ぬ。町家は？此れ亦不可ぬ。と云ふ風に一つとして無くて良きものはなし。故に女學校出の人と雖も頭より農家は不可ぬ敎師は不可ぬ〜空考でなく心から胸に手をあて熟考されんことを希望す。

現代は農家と雖も教育の必要は云ふを待たず、故に教育ありて農事に從事せんとする者の良縁ありて彼岸の榮光に到達するの多きは前述を以て見ても怪しむにたらざるなり。良縁有て良縁なき人こそ怪しむにたるなり。すなはち昔は江戸の敵を長崎で討つた、と云ふ事あるが現今にては、江戸の嫁さんが長崎で結婚したと云ふ變り樣である。此の如き人こそ身分不相應な理想を立てた人ならん。

故に現代女學校出の人よ！自分の身体に話、兩親に問ひて結婚難を避けよ！農村に依り文化村を建設し、農村振興に努力せんとする有意の人は來れ！教育ある未來の賢夫人をあの縁の丘や、黄色滿ちた菜の花畑、すなはち此の世のパラダイスが女學校出の人の、結婚難を避けて訪らるのを微笑して待つて居るだらう。

明日の吉凶

舊暦十二月廿八日
新暦一月二十日

▲一白　思惑外れ物事意の如くならざるべし增資も凶▲二黒　野心を起さず遲々たりとも本業を守るべし▲三碧、一こくでは世の中は通れぬ日穩順なるがよし▲四綠　ドン底は過ぎたりとも尚ほ陰忍し居るべき日▲五黄　常業以外の事に手を出さず成を守るべき日▲六白　多少障碍ありとも撓まざれば思ふ所に達す▲七赤　口舌さへ愼めば何事も結滯なく上首尾の日▲八白　氣を開つかに家內一致し働くべし飲食注意▲九紫　地の理人の和を得たる日相談ごと皆調ふべし

講談　血で血を洗ふ（235）

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮毫

運命を共に

「忠太郎殿」

と千世姫は更に語をついで

「妾も本間成昌の娘、家來が主の仇を報じやうため一命を賭してゐるのを默つて見物してゐることが出來ませうか、妾は父上の名を恥かしめたくない、智勇兼備の名將と謳はれ給ふた父上の名を汚したくないと思ひまする」

姫の言葉は火を吐くやうに熱し女丈夫の氣概を示すのであつた。

姫も忠太郎も姫を飽く迄も本間成昌の忘れ形見であると信じてゐた、だから姫の勇氣ある言葉を聞いて忠太郎は、流石に成昌公の娘だけあると感じ入つた

「お心のうちは能く相判りました、しかし何物にも替へがたき千金のおん身で萬一の事があつては取返しがつきませぬ、先君の御血統は姫君たゞ一人でございまする、その姫君のおん身に萬一の事がありましてはお行方不明の先君に對して申譯なくまた吾々の折角の苦心も水泡に歸しまする、油の壺を抱いて火中に身を投じるが如き危險はお避けにならねばなりませぬ、君子危きに近寄らずとやら、何も卑怯に逃げかくれるのではありませぬ、何卒、拙者の申す事をお聞き屆けが願はしう存じまする」

忠太郎は理を說き誠實面に現はして云つた

「よう判りました、妾の身をそれ程までにお案じ下さるかと思へば、淚の流れるほど嬉しう思はれまする、なれど、妾は矢張りお身の言葉に從ひたうはありませぬ」

と、姫は矢張り決心の色を變へなかつた

「では、どうしてもお聞き下さいませぬか」

「おん身の言葉に背いては甚だ濟まぬことゝ思ひまするが、しかし、妾の運命はおん身と俱になうてはなりませぬ」

「拙者と俱に——」

忠太郎は姫の言葉の意を解しかねた

「お身は此の度は命を賭して、斬死の覺悟でありませう」

「如何にも首尾よく望みを遂ぐればよし、左もなくば斬死の他はありませぬ」

首尾よく本望を遂すれば逃ぐるに及ばぬでありませうし、萬一仕損じた場合にはお身は斬死遊ばされるのでありまする故に、妾が生き永らへて何んと致しませう」

「その時は何處へなりとた身を潛ませ給ふて機を見て再び……」

「さあ、それが出來ませうか、おん身の亡くなられては誰が妾を援けませう、妾をかくすにしろ年若い女一人でどのやうな憂目を見るかも知れませぬ、生き永らへて恥を晒す位なら、お身と共に斬死したが增でありまする、妾としても此の程からのおん身の仕込みで、一人や二人を斬る術は心得て居りまする」

と姫は何處までも忠太郎と行動を共にすることを主張するのであつた。

忠太郎は考へたが成程姫の云ふことも一理があつた落ち延びさせるのはよいが若い女の身一つではどのやうな憂目を見ぬとも限らない

「左樣でございまするか、成程承つてみますれば姫君の仰せも御尤も然らばお言葉に從ひ明日は御一緒に力を協せて惡人輩を討ち滅すことに致しまする」

と忠太郎が承諾した

「おゝ聞き入れて給はるか嬉しう思ひまする」

と千世姫は喜んだ

「然らば、今夜のうちに充分代度は致し夜の明くるを待つて麓に降り、惡人輩を迎ひ討つことに致さうと存じまする」

と忠太郎は飯を焚いて握り飯を拵へ、明日の用意を整へた

「さあ、身が疲れてゐてはなりませぬ、今夜はゆつくり一寢入りを遊ばされるがようございまする」

と忠太郎は姫にすゝめて自分も爐邊にごろりと轉つた

と第二の怪人が石室の外に立つて樣子を窺つてゐた

ナフトール着尺
モスリン着尺
模樣名仙
平　龜田屋　電五七

廣告

ちのくすり
御需めの方は
平白銀町　吉田新聞店へ　電話四十八

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
電話平局五〇七番

御宴會
御婚禮
新年會
特にご勉強いたします
割烹　末廣
電話四二

舊年末　謝恩短期大興行　三日間
日活會社超特作、大衆連續時代映畫
原作…大佛次郎氏　脚色…林義子女史
主演…尾上松之助氏　總指揮…公木之雄氏
第一編より最終編まで　全二十四巻　全部上映致します
幕末秘史　御用盜異聞
鞍馬天狗大會
五月雨が血なまぐさい京洛の街々を洗ひ初めた頃、春雨や綱が袂の小提燈、うつとりと暮れ行く京の街を出で山科に通ふ一里半小野宗房の行手に現れた覆面の怪士、京洛と大江戸を無臺に狂へる如く荒れ廻る……鞍馬天狗とは？
十九日ヨリ三日間
長尺付き映寫時間を早めます
夜間午後六時より
土曜日正午十二時より
入場料金十錢
高級常設　平館　電四六六

石鹸物語

一　新しくホシ美石鹸が生れました。此の石鹸が市場に出るに就ての因縁を一通りお聞き下さい。

二　元來、石鹸は化粧品と云ふよりも、寧ろ保健用品であります。文明人は石鹸で身體を淨めますが、野蠻人は、石鹸を食べて了ひます。

三　日本で舶來石鹸が出來るなどと言つたら、皆さんは不思議にお思ひになるでせうが、舶來品と雖も神樣が造るのではありません。

四　優秀な原料と、西洋の技師と、特種の機械とがあれば立派に舶來品が出來上るのであります。所在地は問題でありません。

五　日本で造つた舶來品には輸入税も掛らなければ、運賃や保險の必要もありません。

六　ホシ美石鹸は、佛蘭西製の最も精巧なる自働機械に依り、最も優秀なる原料を以て自働的に造られます。

ホシ美石鹸が市場に出る迄の因緣話は、まアざつとこんなものです。

ホシ美石鹸

一個　二十五錢
半打　一圓五十錢

HOSHIBI
SOAP
HOS
PHARMACEUTIC

東京　大崎　星製藥株式會社

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

生花教授
池ノ坊流生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、齒痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價　二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します

子弟教育に志す
目醒めた勞働者
身錢をきつて後援會
炭礦方面の父兄

石城郡内郷村は磐城炭礦を有する關係で人口實に二萬六千人本郡一の大村に内郷尋高校外第一二三の四校を合せ六十數學級三千數百の兒童の大部分は勞働者の子弟であるが爲に操行その他普通町村とは趣をことにし其所に教師の苦心一方ならざるものがあつたが近年に於ける

勞働者の、考慮は教育方面に著しき目ざめを呈したとへば勞働爭議に於ても無茶な振舞が兒童教育上に及ぼす惡影響の如き自ら深く考へられて來たばかりでなく平小學校其他に設置されてゐる兒童保護者會を見て貧困兒童の救濟並に體育獎勵及び教育上必要と認むる費用を贊助せんとなし而も筋肉勞働者は筋肉勞働者でなく遂げて見たい極めて純眞な叫びを上げ磐城炭礦[illegible]心とす、全[illegible]勞働[illegible]千餘人の會員が依田尋高校長に相談を持込み最近内郷村兒童教育後援會なるものゝ發會式を擧げ會長に依田校長他の三校長を推し會員が毎月五錢宛一年六十錢を醵出し此總額約七百圓を兩費に充てることになつたが之れは智識階級や有產者をして面目なからしめてゐる

卓珠競技
大會
二月中旬擧行

平町卓球協議主催本縣下卓球競技大會は來る二月十九日（第三日曜）午前八時から平町元郡會議室に於て開催されるが當日の優勝チームには優勝カップを授與し三回連續優勝チームにこれを贈呈する筈で盛會を豫想されてゐるが參加希望者は一チームを五名とし男女を問はず幾チームでも出場を歡迎するとの由である

高木湯本町長が
區會議場に亂入
亂醉の餘勢を籍りて
町民の憤激甚し

批政百出の責めを負つて當然自決すべきも[illegible]觀れる湯本町長高木己之吉氏は復たまた不謹慎極まる醜態を醸し益々町民の反感を高めつゝあるが事件の内容は湯本區會は昨十八日午後七時より町役場議事堂に於て曩さに高木町長が告訴せる事件の善後策について協議會を開會中高木町長は亂醉の餘勢を籍りて議場に躍り込み區會議員柏木清七、比佐榮一、若松幸平、鯨岡賢治の四氏に對し不謹慎極まる言動に出でたので折柄傍聽席に雲集せる區民の多數から罵言を浴びせられ遂に場外に引き摺り出される等の大醜態を演じたが殆ど狂人に近き高木町長の不謹慎な態度に激昂した町民等は町長彈劾の第二段の對策について引きつゞき協議中である

平、落城まで〔二〕
◇…戊辰の役を顧みて

兩軍小名濱に會戰

廿八日官軍は新田山へ迫つた官軍は先づ植田村から海岸通り小名濱へ迂回し泉館を襲はんとして一隊は本道を進んだ、玆に於て平藩士梶原金左衛門鐵砲隊を率ゐ仙臺兵と聯台して互に狙擊した處が迂回の官軍は泉館を襲ひ新田村を衝いたから東軍は向背に敵を受け遂に崩れて間道から田場坂（磐崎村石川街道）方面へ退却し湯本館に據つて防戰大に努めた之れより先新田山から本道へ退却したものは泉街道の遠距離から亂射されて城よりの斥候鈴木兵衛はその騎馬と共に斃れた應援の中村藩兵も退却の已むなきに至り遂に新田山は陥落し泉、湯長谷の二侯共に城に退き相馬地方へ避難した

六月二十八日沸曉備前の兵先鋒となつて因州及柳川佐土原兵と共に湯長谷館を攻めて之れを陥れた忽ちにして湯長谷館は備前の兵が獨占する處となつた

廿九日東軍泉館を回復せんとし小名濱の西郊富岡村に會戰して多くの死傷者を出した、忽ちにして仙臺兵一途に崩れ小名濱町の陣屋に火が起つて市街灰燼に歸した、この日湯本町表町から上町へ亘り兵火に罹つて兵を泊らする所もないので聯合軍は退いて平町に集まつた。

七月朔日の早朝官軍來り襲ふに會ひ城兵出て防戰大に努めた時しも米澤の援兵だしぬけに新田方面の横ひから打つてかゝつたので一たまりもなく銃器を捨てゝ退いた此の時山吉隊長飛丸に斃れ續いて湯長谷藩十馬場米二郎も壯烈な最期を遂げた五日聯合兵二百人許りが笠間藩神谷陣屋兵の藥王寺に屯して居るのを攻め之れを破つた、之れは東兵中官軍との間にスパイの役を勤めたのが發覺した爲である

官軍參謀河内佐久間など諸軍を部勒し因備及柳川佐土原の兵が湯長谷から進み柳川の別軍薩長大村諸軍が小名濱から進み十三日の夜明けに平城に迫つた玆に於てか城兵は城外二里の處迄出かけ火繩銃を亂發し死力を盡して防ぎ戰つたが會々大雷雨が襲來して彈射することが出來なくなつた、柳川兵猛進し柵を破り薩の兵も外廊に迫り尼子橋を挾んで渡り合つた、この時標悍なる柳川兵百五十人ばかりが潜かに橋架に見へ隱れして前進し突如右翼を衝きその虛に乘じて橋上の軍も亦前進した、城兵やむなく退いて牙城を守るに至つた

（つゞく）

縣消防協會を
支部に改稱
近く發會式

平消防組頭井上茂作氏等の主唱で過般設立を見た大日本消防協會では消防事務の圓滑を期するため各府縣に支部設置を勸獎中であるが、本縣でもこれを機會として福島縣消防協會を大日本消防協會福島支部と改稱すると共にその內容を刷新して一段と活躍することになり目下縣保安課で支部施行細則その他草案作成中で陽春の頃を期し、縣下各消防組頭を招集して盛大な發會式を擧げる豫定である

去年の損を埋めんと
養蠶家意氣込む
同業の連絡もとり
相當成績を期待

石城郡地方に於ける昨年は春夏秋を通じ養蠶が不況であつた爲め農家はすこぶる困難な立場に陥つた採算圏内を突破しての安値であり、または稀有の違蠶であつた爲めに本年の蠶業に對しては農家が冷淡になり

好結果がみられない

のではないかと憂慮されてゐたが實際はさうでないこの觀察にはすべこべの氣運に向つてすゝんでゐるものの如く看取される即ち養蠶家は繭の安いのは時節々々でいたしかたがない、安くなつたものであるから高くなるときもあらう、蠶室にしろ、蠶具にしろ、桑園にしろ設備が出來てゐるのであるから養蠶業を今ここですてるわけには行かない、飼へるだけ飼つてみようそしてよい繭を多く取つて値の安い埋合せをしようといふ氣分になり例年よりはかへつて眞劍味が增して來たものゝ如くである、而してその

眞劍味の

あらはれ方は地方によつて異るが蠶種家と養蠶家が提携して進まうと協議するところがあり組合を作つて養蠶の共同飼育を行はうとするところもあり、更に繭市場を設置せんとするところもあり進んでは組合製糸の計畫等も郡養蠶同業組合の内に行はれてゐる有樣で蠶業に冷淡になるところではなく眞劍味が加はつて養蠶熱が益々高潮せんとする振合で蠶業に目ざめてきたのであるからこの機に乘じて指導獎勵よろしきをうれば蠶業の發達は期して待つべきであると

商港が出來るまで
浮べぬ常盤炭
鐵道輸送賃が高くて
現在貯炭廿萬噸

舊暦正月を控ひたる當常磐炭礦方面は相變らず石炭の賣足惡しく現在十三萬噸以上の貯炭を有し益々不景氣に苦るしんで居るが斯くの如く厖大なる貯炭を有するは獨り東北地方に限られたる現象でその原因ともみるべきは

一、大正十五年度には鐵道省との納炭契約が七十四萬噸であつたのに昭和二年度には僅に五十六萬二千噸に過ぎなかつた

一、各地の市況不景氣ハ爲め賣れ行きのおもしきは勿論だが、それよりも東北地方の運賃が高い事即ち北海道方面にては平均六十六哩、九州方面にては二十二哩で東北地方は其の賣捌き地が東京平京方面なるため百哩以上となつてゐるのである、石炭の需要が一般に必要が高められてゐる今日徒らに石炭の高價なる社會政策上一考を要すべき問題にして常磐炭礦の振はざるは石炭の鐵道輸送が高い爲めであるが懸案の小名濱商港が完成したならば之れ等の苦痛を立所に退くことが出來るであらうと各當業者から期待されてゐる

仙臺郷友會
廿一日に總會

本部在住仙臺藩郷友會は二十一日土曜日午後六時より平町谷口樓で開會に決定したが出席の向きは平町千葉彥治氏宛で申込まれたいと

精勤の元巡査
賊を働く
赤井村の怪盜

石城郡赤井村大字赤井平營林署赤井木材伐採事務所に十七日午後一時頃怪漢忍入り机抽出等を持出し金品物色中この物音に附屬住宅の所員沼田清之助が眼をさまし事務所の樣子をみにはいつた所逃げ場を失つた怪漢は突如沼田に飛びかゝつたので大格鬪となつたが遂に沼田のため捕はれ平署に引渡されたこの者は當時双葉郡廣野村居住岡田氣次郎（五五）と云ふ者で本縣巡查を十七年間も勤め恩給百三十圓を貰つてゐる男と判明した

高飛びの途中
勘次郎逮捕
昨日平驛前で

千葉縣安房郡岩井村字高崎生れ當時住所不定無職松坂勘次郎（三三）は去る八月平內鄉村磐城炭礦の坑夫となつて稼いでゐたうち同村白水飯尾タメ方の留守を奇貨とし奥座敷に忍入り衣類十數點代約百圓分を竊取東京方面に逃走してゐたが十八日午前八時頃平町に立廻つたところを驛前で御用目下嚴重な取調を受けてゐる

坑木を嚙る
圖太い坑夫
平署に捕はる

湯本町字水の谷入山炭礦坑夫長屋居住茨城縣多賀郡玉川村東野生れ雜夫中井庄一郎（三八）は去る大正十一年から同炭礦で稼いでゐたものであるが前後數十回に亘り坑木約百本代約五十圓を竊取してゐた事此の程發覺し平署のために十八日午後三時頃自宅で逮捕されたが餘罪ある見込で目下嚴重取調を進めてゐる

不審の老人
或は大捕物か

平町字鎌田町附近を平署猪狩刑事が十七日午後十時頃密行中擧動不審の六十才前後の男を發見引致目下取調中であるが喜多方町生れ瓜生精一（五九）と稱するのみで他は一言も發しないところから目下喜多方署に照會中であるが或は近來の大捕者ではないかとも見られ嚴重な取調を進めてゐる

面目にかけても
例の丁抹建設
來る廿五日總會で
一般の注目を惹く

石城郡農會は別項の如く今十九日午前十時元郡役所内に評議員會を開き明年度豫算その他に就て協議來る二十五日通常總會を招集される事に決定したが新事業と見られるものは

例の石城デンマーク

の建設で昨年末郡内の農業技術員會が愛知縣碧海郡のそれを視察して來た羨望から滿場一致で計畫を樹てたものゝ實際に臨んでみるとどれから手を出してよいのかこれならばと思ふ案のねん出に困り果てゝゐる模樣でその當時識者間から淺薄な見學による單なる物眞ねではないのだらうと云はれた關係もあるので今更後へも退かれず且つ又之れによつて手腕力量の一部を試驗される樣なことにもなるが爲にまがりなりにも成案を示さなければ面目にも拘る筈で大山郡農會技師を初め委員連は少なからず

頭をしぼつてゐるが

如何なる具體案を出されるかが一般に興味視されてゐる、從つて同會豫算額も丁抹案次第によるもので之れがなければ昨年の一萬一千圓に大差ない平凡なものであらう

純金板を所持する
偽齒醫者の卵
現金も多分に持つて
平署餘罪取調中

平署青田刑事部長が去る十六日夜午後十一時頃平町南町附近を密行中卅歳前後の擧動不審の男を發見誰何したところ件の怪漢は矢庭に逃走せんとしたので格鬪の末逮捕本署に引致嚴重取調べたが此奴は當時住所不定無職鹿兒島縣日置郡伊集院村生れ山本國光（三八）と稱し他は

一切口を

緘して語らないが懷中には現金百六十圓の外齒科醫材料純金板三十匁價格約百五十圓分を所持してゐる點から某重大犯人と目星を付け直ちに本籍地に照會した結果前科二犯を有する強か者であると判明し更らに嚴重取調を進めた結果此奴は昨年十一月頃から去る十四日まで相馬郡小高町の鈴木齒科醫に雇はれ中前記材料純金板を竊取逃走し

平町附近

の町村で僞齒科醫者にならんとしたが果さず該純金を賣拂つて高飛せんとしてゐたものであると自白したが尚餘罪頗る多い見込で嚴重取調を續けてゐる

二丁目盛況
きのう福運者

平町二丁目の聯合大賣出し第五日目の昨十八日の福運者は左の如し

（一等）桐簞笥平町白銀町赤塚ハル（二等）鹽鮭平町材木町河トラ上等柳乃李小名濱町小泉啓祥（外三等）好間村西運寺勇外十三名

四丁目賣出
三日間ノ福運者

平町四丁目の聯合賣出し十六、七、八の三日間の福運者は左の如し

（一等）桐簞笥炭礦芳賀キクヨ（二等）外套新町山畑イウ（三等）反物三井吳服店外數十名

忘年會
新年會
同窓會

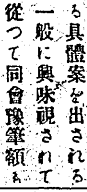
壹圓

日本料理
五品
澤の鶴壹本付

南町
大和家
電話十四番

磐東銀行
泉に出張所

株式會社磐東銀行では事業益々進展し郡南金融界を牛耳つてゐるが此ノ程一大飛躍を前提とし泉村驛前に出張所を設立した



◆或る男花華とた鯉の眼は代表的に男好きの相があるといつたが、笑ふと眼のなくなるところが男に眼のない證據だとは落語のような人相見だ、それでもた鯉などはアタイ辰ドーシの男が好きよなんていふから、お前は何年生れかときいたらわたしは寢ドーシ

◆徵兵檢査の時に姿勢がいゝと賞められたと威張つたとん子はその實は臍の下にタチのわるいお腫きができてゐたので、コヽむと痛いもんだから、反り身になつて威風堂々とかまへてるといふことだ、だから年中四月半ぐらゐなた腹をしてるけれどおん妓は今時の妓には珍らしい利巧な女だよ

告

仙臺藩郷友會を左記方法に依り開催致候に付同藩出身の諸氏は奮て御出席相成度候
御出席の方は平町千葉彥治方へ御申込相成度候

一期日　一月廿一日（土曜日）午後六時
一會場　平町谷口樓
一會費　金參圓五拾錢（當日持參の事）

仙臺藩郷友會

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三五一番
振替東京三二四〇番

小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

深キ經驗ト正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多產廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科、小兒科、
外科、花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科